



FAI SPORTING CODE

Fédération Aéronautique Internationale (国際航空連盟)

2021 年版 FAI スポーティングコード

§ 3
Radio Control Soaring Model Aircraft
(F3F 抜粋)

2021 年 1 月 1 日

日本模型航空連盟・規定委員会 監修
訳： グライダー委員会

5.8.1. 定義:

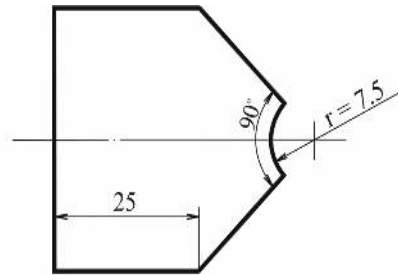
この競技はラジオコントロール スロープグライダーのスピードを競う競技。

5.8.2. ラジオコントロール スロープグライダーの定義

セクション4B(模型飛行機の製作者)パラグラフB.3.1の a)はF3Fに適用しない。

最大翼面積 150dm²
 最大重量 5Kg
 翼面荷重 75g/dm²以下

いかなるタイプの自動操縦機構による、舵面のコントロール及び機体諸元の変更を禁止する。
 胴体先端の半径は、7.5mm以上 (下図ゲージ参照)



TEMPLATE FOR NOSE RADIUS AND MARKING

ラジオは、割当られたR/Cバンドで周波数間隔を守り、他の器材と同時に使えなければならない (すなわち35MHz:10kHz)。

競技者は、コンテストで3機の使用が可能。競技者は、規定の範囲内でこの3機の部品を組み合わせ使用することが可能。バラストの(内部への)追加と、取付角の変更は許される。また、外部からのコントロールによる形状及び面積の変更も許される。

競技飛行中は、飛行機から直接空気の状態の提供や、直接制御をフィードバックする技術の使用を禁止する。それらの技術には、送受信を伴わず直接飛行を制御しない物全てを含む。テレメトリー装置を用い、受信機の受信状況とバッテリーの状態監視は許される。視力補正の眼鏡とサングラスは、許される。

この規則の違反の場合、競技者は競技から失格とします。

5.8.3. 競技者と助手

競技者は自分で操縦しなければ行けない。競技者は**通常**一人の助手をつけることが可能。

この助手は、最初のAベースを、Bベースに向かって通過の時迄と競技終了後にのみ補助と助言のみ可。強風などの条件により、競技委員長が発航専任助手の追加が可能。

5.8.4. 公式飛行の定義

競技者または助手の手から離れた時から、一回の開始とする。

5.8.5. 飛行の回数

競技者は一回の飛行時一回しか公式飛行が出来ない。

以下の条件の場合、再飛行が認められる。

- 競技者のコントロール以外の理由で、発航が妨げられたと審判が認めた時。
- 競技者の飛行機が他の飛行機と衝突した場合で、競技者に責任がない時。
- 飛行が正しく計測されなかった時。
- ランチエリアに設定された水平面より上に、発航後5秒以内に競技者の意思に反してコースイン出来無かったと、ジャッジが判定した時。(無風他の外的要因)

再飛行が発生した場合現地と周波数の考慮の上、できるだけ速やかに実施する。

もし競技者が結果に対してプロテストを要求の場合、陪審にて速やかな決定がなされない場合には、競技者は「暫定的な再フライト」を実施する。

その後、陪審は、基のスコアか「暫定的な再フライト」を正式結果とするかを決定します。

「暫定的な再フライト」を実行した後に、抗議は撤回されることができません。

5.8.6 飛行の取り直し

公式飛行が終了し如何なる結果で有っても、以下の場合は公式記録は0とする。

- 競技者がFAIルールに違反した機体を用いた時
- 飛行中に部品脱落の時
- 助手が計測飛行中にアドバイスの時
- 競技者以外が操縦した時
- 飛行が完了しなかった時
- 機体が決められた着陸エリア外に着陸の時
- 開始合図から30秒以内に発航されなかった時

- h) ランチエリアに設定された水平面より上のコース上を 5秒以内に通過しない時
- i) A面ジャッジが、機体のコースインを判断出来なかった時

5. 8. 7 競技運営

競技はラウンド毎に実施。競技順は、使用する周波数が重ならないように抽選で決める。
競技者は、レディボックスに呼び出されてから3分間の準備時間が与えられる。
3分経過後、スタートの合図が行われる、競技者及び助手は、スタート合図後30秒以内に指定された発航エリアから、発航しなければならない。
音声機器と発航エリア、可能な限りA,B面の中央に設置の事。
発航後スピードコースには、30秒以内に進入しなければいけない。もし機体が30秒以内にスピードコース(B面に向かって最初にA面を通過)に入らなかったならば、30秒経過後直ちに飛行時間が開始される。**30秒以内にコース進入しなかった事をジャッジから知らせる。**
~~もし30秒以内にコースインしなくても、競技委員長は何の合図もしない。~~

5. 8. 8 競技飛行

競技は100mのコースを10回飛行し、最初にB面に向かいA面を通過後から時間の短さを競う。
もし障害物その他によって100mの距離が取れない場合短縮できるが、最低80m以上でないといけない、この短縮は、世界選手権又は大陸選手権には適用されない。
競技者の機体は、A,B面ジャッジに見えなければいけない。

5. 8. 9 スピードコース

スピードコースは斜面の端に沿って配置されて、2つの明らかに見える旗で、両端でマークされます。
両端で飛行機旋回が相互に平行で斜面と直角をなすことを、主催者は確実としなければなりません。
状況に従い、両面はそれぞれA面とB面と記されます、そしてA面は公式開始面です。
A面が競技開始面となり、A面とB面で、機体の一部でもスピードコースを超えたとき、公式計時員は、音にて知らせる。さらにまた、初めてのB面に向けた機体がA面を通過した時信号が発せられる。

5. 8. 10 セーフティー

A,B面の観測ゲージは、安全な場所に設置されなければいけない。
主催者は、競技中(手が離れてから、飛行の計測が終了する迄)のスピードコースとセーフティーエリア(ジャッジ、他の競技者、見学者他のいる)をハッキリと垂直面で示さなければいけない。
機体の一部でもこのセーフティー面を超えた場合、**一回毎100点のペナルティー**が課され、このラウンド得点からだけでなく、合計得点から減点される。主催者は、セーフティー面通過を監視の為、観測用機器とジャッジを配置しなければいけない。
追加として、主催者はセーフティーエリアと着陸エリアの境界を明確に指定しなければいけない。
競技者又は助手の手を離れた後、セーフティーエリア内のいかなる物(地面、車、棒、植物など)に接触の場合100点のペナルティーを課す。セーフティーエリア内の人との接触は1000点のペナルティーを課す。何回発生したかは関係なく内最大のペナルティーが適用される。
ペナルティーの100又は1000点が最終成績から差し引かれる、ペナルティーはスコアシートに追記される。

5. 8. 11 計測員

飛行は2人の計測員で計測される、2人は全ての競技者に同じでなくて良い。
ジャッジは、ルールに従って実施され、時間計測員に正しい距離を飛行した事を知らせる。

5. 8. 12 得点

飛行の結果は、秒及び100分の1秒で記録される。
ラウンドグループ(5. 8. 16参照)結果の以下計算に使用される。
~~競技者の得点 = 1000 X Pw / P - Pw: ラウンドグループのベスト結果~~
~~P: 競技者の結果~~

競技者の得点 = 1000 x Tw / Ti
Ti = 競技者の時間
Tw = そのグループベスト時間

5. 8. 13 順位付け

最低4ラウンド実施しなければいけない、この場合最低のラウンド結果が切り捨てされる。
もし14ラウンド以上実施の場合、最低2ラウンドの結果が切り捨てられる。
同点の場合、5ラウンド決勝ラウンド、これでもの場合差が付くまで6ラウンド以降を実施して決定、もしこれが出来ない場合、切り捨てラウンドの点数で最終順位を決定しても良い。

5. 8. 14 競技の運営

競技会はスロープソアリングクラブに適した会場で開催されないといけない。
主催者は、発航場所、着陸場所と飛行機の旋回位置の設置に、地形と風向きを考慮しなければい

けない。

5. 8. 15 変更

飛行、着陸エリア他の変更は、別のラウンド又はグループで行わなければいけない。

5. 8. 16 気象条件と中断

以下の条件で下では中断しないといけない

- A) 飛行場所の地上2mの位置で20秒間の平均風速3m/秒以下又は25 m/秒以上。
- b) 風向きがスピードコースに対して、最低20秒間常時45度以上。
風速・風向きの測定は、専用の機器で計測され、設置位置は主催者の経験にて決定。
- c) 降雨の時。

上記条件下では、競技委員長は競技を中断し、選手はリフライト権利を得る。
グループは、最低10名以上で全選手を同人数(+1)に分割しないといけない。
競技期間中、気象条件が良ければ1ラウンド1グループが良い、中断が30分以上の場合、グループ先頭から再開され、グループ毎に結果が計算される(5.8.12 参照)

5. 8. 16 サイト

要望される、サイトレイアウト(新)を図す。

